

# 銀行

## 1. 評価対象企業（13社）

めぶきフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、コンコルディア・フィナンシャルグループ、新生銀行、あおぞら銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、みずほフィナンシャルグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

## 2. 評価方法等

### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	3	15
計		21	100

(注) 評価項目の内容および配点は115頁参照

### (2) 評価実施アナリストは25名（所属先24社）である。（116頁参照）

## 3. 評価結果

### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（114頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣のIR姿勢等**ほか3分野において、内容変更、配点変更または内容・配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は76.0点（昨年度75.5点）、総合評価点の標準偏差は、6.4点（昨年度8.6点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が78%（昨年度76%）、**説明会等**が78%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が82%（昨年度85%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が73%（昨年度同率）、**自主的信息開示**が67%（昨年度64%）となり、**自主的信息開示**がやや上昇したものの、他の分野に比べ最も水準の低い状況は変わらない。
- ③ 評価項目について見ると、全21項目中、次の7項目が平均得点率で80%以上となった。なお、7項目の内訳は、**説明会等**が3項目（(d) (e) (f)）、**フェア・ディスクロージャー**が3項目（(a) (b) (g)）、**経営陣のIR姿勢等**（(c)）が1項目であり、特に、(a)は全社が90%以上、(b)は全社が85%以上という高い得点率（評価点/配点〈以下省略〉）となった。
  - (a) 「経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか」（平均得点率97%）（得点率：100%5社・90%台8社）
  - (b) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」（平均得点率91%）

- (得点率：90%台 9 社・85%4 社)
- (c) 「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、積極的に情報開示を行っていますか」(平均得点率 89%) (得点率：90%台 8 社・80%台 5 社)
  - (d) 「決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか」(平均得点率 86%) (得点率：90%台 6 社・80%台 5 社)
  - (e) 「決算発表および説明会は迅速に行われていますか」(平均得点率 84%) (得点率：100%1 社・90%1 社・80%台 8 社)
  - (f) 「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていますか」(平均得点率 82%) (得点率：90%台 3 社・80%台 5 社)
  - (g) 「英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか」(平均得点率 81%) (得点率：90%6 社・85%1 社)

④ 一方、自主的情報開示の次の項目は、上位企業では得点率が高いものの、得点率の低い下位企業も多く、平均得点率は 60%台となった。

・「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について」

A 「積極的に実施していますか」(平均得点率 65%) (得点率：30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 4 社)

B 「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか」(平均得点率 63%) (得点率：30%台 1 社・40%台 3 社・50%台 3 社)

⑤ なお、

(a) 説明会資料について事前（当日朝）のアップロード、ネットで同時に参加可能な説明会の開催

(b) 政策保有株について ROE 目標と整合的な、より合理的な数値的説明

(c) 過年度データの Excel 等による電子的開示の充実

を望む声が引続きあった。

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 三井住友フィナンシャルグループ(ディスクロージャー優良企業(2 回目)、総合評価点 85.4 点 [昨年度比+1.5 点]、昨年度第 2 位)

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が第 1 位（得点率（以下省略）84%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（89%）、経営陣の IR 姿勢等（85%）、説明会等（84%）、自主的情報開示（87%）が第 2 位となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等、コーポレート・ガバナンス関連、自主的情報開示が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していること」が最も高い評価となった。また、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者とは有益なディスカッションができること、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、積極的に情報開示を行っていること」が高く評価されたことに加え、「会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られること」が評価された。なお、より強みをアピールすべきとの声や、四半期開示の改善を望む声も寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」の「部門別・項目別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」および「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」が共に最も高い評価となった。また、「四半期の開示資料の内容が十分であること」が評価された。さらに、「決算発表および説明会が迅速に行われていること」が高い評価となった。なお、事業部門毎の配賦資本、当期利益の開示拡充を望む声も寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていること」および「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」が共に最も高い評価となった。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・

動画配信、過去の長期財務データ)を行っていること」が評価された。これらの結果、この分野において同得点第1位の評価となった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が評価された。また、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。さらに、「中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること」も最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること」が高い評価となったことに加え、「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が最も高い評価となった。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が高い評価となった。なお、「IR Day」が充実していたと評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第2位 三菱UFJフィナンシャル・グループ（総合評価点 84.2点〔昨年度比-0.6点〕、昨年度第1位）**

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（85%）、**自主的情報開示**（89%）が第1位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位（89%）、**説明会等**が第4位（83%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第5位（77%）となった。昨年度に比べ、改善した**自主的情報開示**を除き、他の4分野はわずかに低下した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していること」が高い評価となった。また、「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができること、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が最も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、積極的に情報開示を行っていること」が評価されたことに加え、「会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られること」が最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」の「部門別・項目別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が高い評価となったほか、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」が最も高い評価となり、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）」が評価されたことに加え、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主の開示を含む）」が十分になされていること」が高く評価された。また、「四半期の開示資料の内容が十分であること」が評価された。さらに、「決算発表および説明会が迅速に行われていること」が高い評価となった。なお、地域ごとに主要指標をまとめることで海外金融機関との比較がよりし易くなるとの声、傘下銀行単体の業績目標の開示を期待する声、事業本部別の配賦資本・当期利益の開示を期待する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていること」および「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」が共に最も高い評価となった。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること」が評価された。これらの結果、この分野において同得点第1位の評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が最も高い評価となった。一方、「資本政策・還元政策の開示」の評価が平均得点率と同率（77%）の同得点第7位にとどまった。この点について、分かりやすく、丁寧な説明を望む声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること」および「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が共に最も高い評価となった。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」も最も高い評価となった。これらの結

果、この分野において第1位の評価となった。なお、ESG説明会や「Investors Day」が充実していたと評価する声が寄せられた。

### 第3位 三井住友トラスト・ホールディングス（総合評価点 84.0点〔昨年度比+3.1点〕、昨年度第5位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（85%）、コーポレート・ガバナンス関連が第2位（82%）、経営陣のIR姿勢等が第3位（83%）、自主的情報開示が第4位（82%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（88%）となった。昨年度に比べ、同率となったフェア・ディスクロージャーを除き、他の4分野は改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第1位）につながった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していること」が評価された。また、「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができること、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」も評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、積極的に情報開示を行っていること」が最も高い評価となったことに加え、「会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られること」が評価された。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」の「部門別・項目別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が高い評価となったほか、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」および「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されている（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）こと」が共に最も高い評価となったことに加え、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」が高い評価となった。また、「決算短信の同時配布資料の内容が十分であること」が最も高い評価となったことに加え、「四半期の開示資料の内容が十分であること」も高い評価となった。さらに、「決算発表および説明会が迅速に行われていること」も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていること」が評価されたことに加え、「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていること」が最も高い評価となった。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること」が評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が最も高い評価となった。また、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が評価された。さらに、「中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること」も評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること」および「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が共に評価された。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」も評価された。なお、「IR Day」が充実していたと評価する声が寄せられた。

以 上

## 2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目4 (配点23点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目7 (配点32点)		3. フェア・ディー ロージャー 評価項目4 (配点12点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目3 (配点18点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目3 (配点15点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8316 三井住友フィナンシャルグループ	85.4	19.5	2	26.9	2	10.7	1	15.2	1	13.1	2	2
2	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	84.2	19.6	1	26.6	4	10.7	1	13.9	5	13.4	1	1
3	8309 三井住友トラスト・ホールディングス	84.0	19.2	3	27.2	1	10.5	4	14.8	2	12.3	4	5
4	8411 みずほフィナンシャルグループ	81.2	18.8	4	25.4	6	10.5	4	14.1	3	12.4	3	3
5	8308 りそなホールディングス	79.8	18.6	5	25.8	5	10.3	6	14.1	3	11.0	6	3
6	8303 新生銀行	77.8	17.8	7	26.7	3	10.7	1	13.2	7	9.4	7	7
7	8331 千葉銀行	75.6	18.0	6	23.8	10	9.4	8	13.3	6	11.1	5	6
8	8355 静岡銀行	72.3	17.8	7	23.6	11	8.9	11	13.2	7	8.8	8	12
9	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	71.5	17.2	9	23.9	9	9.3	9	13.0	9	8.1	12	10
10	8304 あおぞら銀行	70.7	17.2	9	24.3	7	9.9	7	12.5	10	6.8	13	8
11	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	69.6	16.5	11	24.1	8	8.9	11	11.8	12	8.3	11	11
12	7182 ゆうちょ銀行	69.0	16.4	12	23.1	12	9.1	10	12.0	11	8.4	9	13
13	7167 めぶきフィナンシャルグループ	67.1	16.4	12	22.8	13	8.9	11	10.6	13	8.4	9	9
	評価対象企業評価平均点	76.00	17.92		24.93		9.82		13.21		10.12		

2019年度 評価項目および配点(銀行)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (23点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2)IR部門の機能・姿勢	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	6
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、積極的に情報開示を行っていますか。	3
②会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (32点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①部門別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つた状態で十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)。	5
④自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(規制変更の影響など自主的開示を含む)が十分になされていますか。	4
(2)説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
①決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。	3
②四半期の開示資料の内容は十分ですか。	4
(3)決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー (12点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。	2
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	2
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ ウェブサイトを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていますか。	6
(3)英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (18点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	6
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(3)目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (15点)	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について [過去1年間を目安に評価]	
A 積極的に実施していますか。	5
B その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。	5
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	5

## 銀行専門部会委員

部会長	高井 晃	大和証券
部会長代理	山田 能伸	元トイ証券
	鮫島 豊喜	SBI証券
	高宮 健	野村証券
	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

## 評価実施アナリスト（25名）

幾代 孝四郎	大和証券投資信託委託	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
伊奈 伸一	UBS証券	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
今井 雅	アセットマネジメント One	伴 英康	ジェフリーズ証券会社 東京支店
岩下 暢道	三井住友 DSアセットマネジメント	終 宏二	QUICK
斎藤 佳奈	三井住友トラスト・アセットマネジメント	古舘 克明	朝日ライフアセットマネジメント
笹島 勝人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
佐藤 雅彦	SMBC日興証券	松野 真央樹	みずほ証券
鮫島 豊喜	SBI証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
高井 晃	大和証券	宮田 幸弘	三菱UFJ信託銀行
高橋 良平	三井住友 DSアセットマネジメント	柳平 孝	いちよし経済研究所
高宮 健	野村証券	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
中村 真一郎	SMBC日興証券	山田 能伸	元トイ証券
永本 成克	MU投資顧問		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。